

旭高校は、ひとつ上を目指してのぼり続けています

旭高校の今 そして未来へ

育てたい生徒像
つねにひとつ上を目指す生徒

平成27年度は、旭高校の活動が高く評価されました。

教育委員会による生徒表彰（他の生徒の模範となる活動に対する賞）として、地域の中学生との交流事業「アサヒカップ」、三ツ境養護学校との部活動を通しての交流「ピリーブ」の取組みに賞をいただきました。

そして、かながわ部活ドリーム大賞の中で、総合的に最も優れた成果や実績を上げた学校として「グランプリ」を、さらに、女子バスケットボール部の「スポーツ賞」をはじめ、3つの個人賞（キャプテン賞、マネージャー賞など）を受賞しました。

伝統を活かし、未来を切り開く

先輩が築き、継続してきた活動を、これから入学する皆さんが引き継ぎ、時代に合わせて発展させていく使命が待っています。旭高校の特色である部活動に加え、ボランティア活動を確立してくれることを期待します。

学習面でも、「わかる」から「使える」まで伸ばす努力をすることで、自分の進路目標を高く持ち、「つねに、ひとつ上」をめざして、挑戦してください。

卒業式

旭高校の使命
社会貢献できる人づくり

卒業生の思いをつなげる

卒業生代表の言葉で、式場に多くの涙が流れました。

入学したときの緊張から始まり、仲間と一緒に過ごした時間の楽しかったことや、苦しいときに支えてくれたかけがえのない仲間の話がありました。旭高校で多くの出会いがあり、夢を見つけ、旭魂を持って突き進む決意を示すとともに、後輩には時間を大切にしてほしいというメッセージがありました。最後の感謝の気持ちの言葉のときには、校長として、生徒が旭高校を巣立つときの寂しさを強く感じました。

新しく入学する皆さんが旭高校を卒業するとき、一緒に苦労し、喜びを分け合った一生の仲間ができています。旭高校だからできることがたくさんあります。強い意志を持ち続けることができればいいのですが、現実には厳しい。そのとき、支えあうのが旭高校の仲間です。

「切磋琢磨」という言葉を卒業生に送りました。仲間とともに、いつまでも自分を磨き上げる。旭高校の生徒に大事にしてほしい言葉です。